



13番は90度東ヘティを新設

その 225

クローズアップ21

アリソン設計の名コース 廣野ゴルフ倶楽部

日本一のコース・景観を復元し、現代のゲームにマッチした機能性を追加

廣野ゴルフ倶楽部（18日、兵庫）のコース改造工事がほぼ終了し、予定通りであれば10月1日にオープンする。

高塚勝久支配人は改修工事の工程について「1月からまず既存のグリーンを撤去し、新しいグリーンとバンカーの構築から入りまし。18ホールのグリーンと練習グリーン、それに練習場の1つのグリーン、その計20グリーンとそのグリーン周りのバンカーがすべて完成し、播種が終わったのが5月20日です。その間、フェアウェイバンカーとベアサンドエリアを造る工程に入り、現在その過程にありま。グリーンメンテナンス面は順調に推移しており、昨年のような自然災害がなければ、8月中には土工事の大部分が終わるように施工業者が懸命に働いている状況です」と話している。

世界のゴルフコースランキングで日本一と称せられる廣野がどう改造したのか？高塚支配人に改造工事の内容を伺うとともに、関係資料から改造内容をレポートする。

改造の目的はリストレージョン（復元）

神戸のタウン誌・月刊『神戸子』の今年3月号は「廣野ゴルフ倶楽部の歩みと、その価値」と題して、倶楽部の理事長、キャプテン、名誉会計が登場し、アリソン本人の写真やコース設計図、倶楽部の歩みを詳しく紹介している。

web版でも読めるので紹介すると、鈴木一誠理事長が今回の改造を「リストレージョン」と表現。直訳すれば「復元」となり、今回の改造を「開場、戦後の再オープン、昭和63年のベント回帰」に次ぐ廣野の節目と位置付けた。

廣野GCでは、ここ10年間で日本女子アマと日本アマの会場となり、その際64が出たこともあり「ボールが飛ぶ選手にはこのコースはやさしすぎる」と、「日本一と言われるコースに戻すこと」を決断したという。

また改造は「英国オリジナルスタイルでゆくと宣言」し、適任者を探していたところ廣野の会員からR&Aで知り合った設計家のマーティン・イーバート氏を紹介されたという。

イーバート氏は、1966年英国生まれ。工学を学んだケンブリッジ大学でゴルフ部キャプテンを

廣野ゴルフ倶楽部 年表

1931年（昭和6年）

- 1月10日 アリソン氏レイアウト引き受け
- 2月20日 造成工事始まる。

1932年（昭和7年）

- 5月16日 18ホール完成（当時はベント1グリーン）
- 6月19日 開場式

1937年（昭和12年） 神有鉄道（現・神戸電鉄）が廣野ゴルフ場前まで開通。

1944年（昭和19年） 6月1日 閉鎖命令が出て川崎重工業の戦時農場に徴用される。

1947年（昭和22年） 乾豊彦氏を中心に7名の委員会を結成しコース再建に着手。

1948年（昭和23年） 6月20日 イン9ホール再開

1949年（昭和24年） 6月19日 18ホール復興（グリーンは高麗芝）

1957年（昭和32年）

- 6月8日 開場25周年記念競技
- 8月2日 クラブハウス全焼
- 12月1日 新クラブハウス地鎮祭（渡辺節氏設計、竹中工務店施工）

1958年（昭和33年） 6月3日 新クラブハウス竣工

1982年（昭和57年）

- 5月15日 13番に石積み眼鏡橋完成、50周年にちなみ「五十路橋」と命名
- 5月21日 クラブハウスに隣接して日本ゴルフ協会（JGA）のゴルフミュージアムオープン

1987年（昭和62年）

- 6月12日 ベントグリーンへの復帰を決議。アリソンの設計に近い形に戻し、USGA方式のサンドグリーンとすることを決定。
- 11月9日 グリーン改造工事着工（1988年完成、ベンクロスベント）

2005年（平成17年）

- 10月16日 第70回日本オープンで片山晋呉プロが2アンダーで優勝、同大会の廣野での開催は38年ぶり5回目だった。

2019年（平成31年・令和元年）

- 1月4日 コース閉鎖しコース改修工事に着手（竹中土木施工、ニホンターフメンテナンス造園管理、グリーンは007と777の混合のスーパーセブン）。予定通りなら10月1日オープン。

務めた後、マッケンジー&イーバートを設立して、世界中でコース設計を手掛ける。特にジ・オープン開催、10コース中、7コースの改造を担当し、「ジ・オープンドクター」とも称せられる。高塚支配人は「今回の工事はアリソンの原図に基づき、できる限り開場当時のコースに復元するのが目的」と話す。ただし、「開場当時と比べ、現代はプレーヤーの技量や用具が発達したので、復元する（古い機能の

復元）と同時にフェアウェイバンカーの位置の変更（新しい機能の追加）など、どれくらい新しいものを取り入れるのか決めるため、廣野GCは設計家のマーティン・イーバート氏と何度も話し合いを持ちながら工事を進めています」と説明している。

主な改造はグリーンやバンカーフェアウェイは拡幅

では、廣野GCは具体的にどこに手を加えたのだろうか。

グリーンとグリーン周りのバンカー、フェアウェイバンカーとベアサンド（ウエスト）エリアが中心で、例えば今まで「フェアウェイ、ラフ、バンカー」と並んでいたが、「フェアウェイ、バンカー」の並びにしてラフを少なくする方法でフェアウェイを拡幅した。一般のプレーヤーが楽しめる改修であるが、フェアウェイを広げた代わりにバンカーで難易度を高めている。ただしグリーンについては、9番が明らかに2段グリーンだったのをなだらかにしたり、逆に8番は難しく見た目にも変わったという。P3シヨートホールは4つとも変化したが、見た目（景

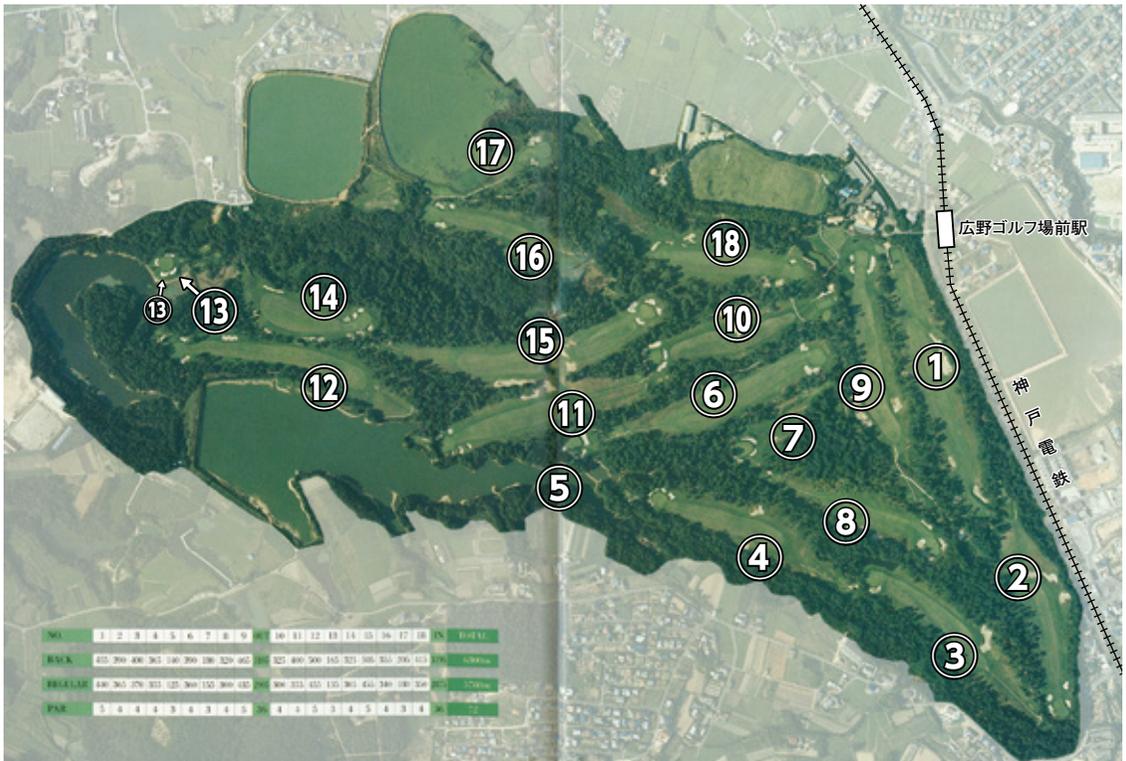


アリソンが年賀状で日本画に残した印象的な5番の現況と1933年（左上）、完成予想CG（右上）

観）も含めて素晴らしい出来上がりと思うと高塚支配人は話している。

特に池と、グリーン、バンカーのコントラストが見事な13番は、アリソンの図面通りにティの位置

を復元。従来の位置から90度東に新ティが造られ、そこからの眺めはその昔「日本一美しいショートホール」と称されるに相応しい景観となった。そもそもそのティはアリソンの原図の再現というから



廣野GCレイアウト「五十年の歩み」（1982年刊）より。最も西側にあるのが13番（ホール番号の位置が新ティ）

見事という他はない。
 イーバート氏は初代キャプテンの高畑誠一氏が開場翌年の1933年に出版した廣野G.C.の写真集や倶楽部にもなかったという戦前の廣野の写真、それにドローンを



13番の現況と1933年（左上）、完成予想CG（右上）
 現況は従来のティからの眺め（46ページの写真は新ティからの眺め）

使って上空から撮影した写真も活用してコンピュータグラフィック（CG）により、完成予想CGを仕上げて、廣野G.C.の会員向けにプレゼンを行ったという。
 その緻密さと熱心さにも驚くそ

うだが、イーバート氏が廣野の土地に足を踏み入れた初印象は「地形に弱点がない。厳しい歩行を強いるアップダウンもなく、ホールを特徴づける緩やかな渓谷、柔らかな変化がある。コルト&アリソンが好んだ地形」と感じたそう。イーバート氏がかつての写真集で見た廣野の18番には巨大なバンカー群があり、米国の

パインバレーを想起させた。そしてアリソンの原図から、まさに手作りでコースを造成した開場当時のスタツフにも感銘を受けたという。
 ただ、アリソンの原設計と、1940年から1960年までの古い航空写真を比べると、グリーンがより小

さく、フェアウェイがより狭くなり、バンカーが荒々しさを失い、松林が著しく成長していた。樹木が重なり合い、当初のようなすっきりとした眺望を阻害していた。結論としてイーバート氏は、まっ



グリーンの整備も終了した9番からクラブハウスを臨む



3番の現況と1933年（左上）、完成予想CG（右上）

すくな米松を伐採すれば、日本の曲がった松の木の良さが映え、眺望も開けると判断したという。

13番は新ティからグリーンまでのルートに樹木を伐採した他、コース内で千本以上、木を伐採した。

9番グリーン横の大木も2本から1本に減っているが、気がついていてはいる会員が少ないほど景色に溶け込んでいる。

今回の改造で廣野の印象を大きく変えたのがベアサンド（ウエス



18番の現況と1933年（左上）、完成予想CG（右上）

ト）エリアやバンカー。全体的に伝統的林間コースの落ち着いた趣の中で、異彩を放つ存在だ。アゴの高いパー3のアリソンバンカーはより先鋭に、荒々しくデザインされた。フェアウェイバン

カーにもギザギザしたシェイプが施された。

**フォワードティ新設
グリーンにはスパーセブン採用**

高塚支配人は会員の反応やその



7番の現況と1933年（左上）、完成予想CG（右上）

他施策を次のように補足している。
「5月に開催された会員向けの現地説明会では多数の会員から早くラウンドしたいと言った声を聞くことが出来ました。勿論、なかには以前と変わって違和感があると

か、少し難しそうだと言う方もいらっしゃるかもしれませんが、景観のスケール感が以前より増し、非常にエキサイティングになったコースをご覧になっていただき、会員の皆さんの喜んでる姿を見て、工事

途中ではありますが安堵しました。

廣野GCとしては、今まで通りアリソン設計のコースを楽しくプレーすることを念頭に、エリートゴルフアーには挑戦する気持ちがかき立てられるコースに、多くの会員などのアベレージゴルフアーには改修以前と同じような感覚でプレーしてもらえようように設計家に依頼しました。勿論、日本一であり続けるコースにし、世界でもっと評価されるようにするのも、コースを改修する目的の一つです。

ティについては、以前からあったティに、フォワードティという距離が非常に短いティを新設しました。高齢者は勿論あらゆる年代の方も楽しめるのではないかと考えています。レディースティに関しては以前から距離が長く難易度が高かったため、少し距離を短くしました。

今回のグリーンの品種は、最近の異常気象に対応すべく、高温多湿に対応実績があった007とその進化版でより暑い夏にも強いと言われる最新の品種の777をブレンドした品種スーパーセブン（007と777が50%ずつ）を選定しました。

真夏のコンディションの維持とニューイベントにすることによるクオリティの向上を目指しています。

また廣野は農学博士の青木則明氏にご協力をお願いし、色々な助言をいただきながらメンテナンスに細心の注意を払っています。ここ最近、グリーンの品種転換をした数コースに情報を聞いたところ、新しいグリーンにした際には肥料をやった方が良くアドバイスを受け、施工管理者とも相談しながら管理を行っています。

会員の平均年齢が70歳を超え、フォワードティの新設やレディースティの見直しも行われた。ただし、歩いてのプレーや一般プレーヤーが会員の同伴を必要とする古き良き伝統は今も揺るがない廣野のモットーという。読者も関心がありそうなプロトナメントは観客受入れ問題から難しいと感じているようで、近い将来受け入れるとしたらアマの大会となるようだ。海外からの視察要望も増え、海外メディアのコースランキングも更新されるだろう。果たしてアリスンの復元と新機能の追加がどう評価されるのか。その成長過程を度々訪れて報告したいところだ。